



制御機器の開発・組み立てに強み

電子部品と制御技術に 最新のテクノロジーとシステムで挑戦

和田電器 株式会社

事業内容と沿革

航空機や鉄道などの公共交通機関に 使われる液晶表示器を製造

相談役の和田洋一氏が創業し、和田晃一氏は2代目社長。当初は電子部品の製造からスタートした。その後、産業機械の制御コントローラー、プリント回路基板、液晶パネル製造などを手がけ、ハードとソフトの両面にわたる技術力を蓄積してきた。主軸は電子制御機器の開発・製造。中でも、航空機の操縦室に採用されている液晶モニター表示器の制御ユニット製造が社内の主力製品となっている。

液晶の光源として使われるバックライトの導光板も主力技術としている。独自開発した導光板パターン加工機を保有し、微細かつ大型の導光板製造を可能にする。軽量・薄型化、省エネルギー化、両面均一発光、自由な輝度分布を実現する技術を有する。光学設計から製造、組立、評価まで一貫したものづくりを提供できる。

平成8年にはカスタマーサービス部門を設立し、制御機器の修理も事業化している。和田電器が製造した制御機器にとどまらず、他社製も引き受けている。近年はオリジナル製品の開発に力を入れ、導光板を活用した照明装置や水耕栽培用照明にも乗り出した。

強み

ソフトとハードの ノウハウを蓄積して半世紀

ものづくり企業として半世紀の実績を有する。半導体製造装置や部品実装機、ロボットの制御コントローラーも手がけている。ソフト・ハードの両面でノウハウを蓄積し、製品の開発、部材調達、実装、組立、性能検査まで一貫して手がけられる。当初の主力事業だった電子部品加工はグローバル化で生産の多くが海外に移転したため、付加価値が高い電子制御機器製造に軸足を移してきた。「自社製品を作って、自分たちで売る経営が一段と必要になってきている」と幹部は口をそろえる。

和田電器は事業や業務の役割を分担したグループ経営も大きな特色となっている。大阪府門真市内には、ものづくり拠点の興和電器(株)と開発拠点の電瞭技研(株)がある。

また長崎県佐世保市には、クリーンルームを設置した高精度な液晶タッチパネル貼り付け事業を行う長崎ニューテック(株)、さらには導光板応用製品の設計開発・制作の内山オプトテック(株)があり、関連会社4社とともに、『和田テクノ』グループを形成している。各社は普段は得意とする独自ノウハウでスピーディーな開発・製造を行うが、グループとしてそのノウハウを組み合わせるときには一丸となり、製品開発力の向上と事業拡大を図っている。



プリント基板実装機などがそろう



シースルーサイン



導光板を活用した独自製品群



導光板を活用した水耕栽培照明

- 企画提案
- 試作受託
- 短納期対応
- 多品種少量
- 量産対応
- コスト相談
- オンラインワン

カドマイスターの取り組み

人材育成とモチベーション向上

新人は入社すると外部研修による「新入社員研修」と「QC(品質管理)入門」を受講する。社会人としての意識を自覚させるのが目的。2年目からそれぞれの部門に配属させ、その後もさまざまな研修で質を高めさせる。社員としてモチベーション(意欲)を高めるのも大切。年に2回は、社員全員でレクリエーションを実施している。例えば、バーベキュー大会を開き、コミュニケーションを深めることで団結力を高めている。

相談役のアイデアが製品化の原動力

現在も活躍中の和田相談役は社内でも随一のアイデアマンだ。相談役がさまざまな事業や製品開発のコンセプト(概念)を示し、それを開発チームがものに見る形にしようと取り組んでいる。こうした努力により、特定の顧客に大きく依存しない経営を目指し、達成してきた。現在、売上高に占める特定顧客の比率は最大30%に下げた。グループを挙げて新製品の開発に取り組み、自社製品の売上高比率を2桁に乗せようとしている。

社員の質を高め、グループ一丸で付加価値ある製品づくりを目指す



代表取締役社長
和田 晃一 さん

昭和39年の創業以来、電子部品から始まり、産業用機器、医療機器、各種電子機器を製造してきました。製品の開発、実装、組立、性能検査までを一貫して行っているのが、短納期が可能です。また、長崎工場に独自開発した導光板パターン加工機があり、水耕栽培用LED照明などの自社開発製品を多数展開しています。よりコアな部分で顧客とのつながりを深められるように社員一人ひとりの質を高め、和田テクノグループが一丸となって受託製品や自社開発製品、付加価値のある製品づくりを目指し、これからもまい進していきます。

主な事業内容

電子制御機器、LED導光板照明の製造および制御機器のカスタマーサービス

主な取引先(納入先)

パナソニック(株)、三菱電機(株)、黒田電気(株)など

【住 所】〒571-0034 大阪府門真市東町16-18

【T E L】06-6900-8008

【F A X】06-6900-8007

【創 業】昭和39年1月 【設 立】昭和43年7月

【資本金】5,000万円 【従業員】80名

今後の展開

導光板の自社製品が ここ1、2年で引き合い増加

平成21年から、得意の導光板技術を生かした自社製品の開発を本格的に始めた。これまでにないユニークな製品が多く、展示会などで発表し、実売を目指している。

微細加工を施した導光板サイン「シースルーサイン」は、点灯させていない文字や図柄を目立ちにくくする加工により透け、重ね合わせた文字や図柄を一つの画面に複数、切替表示できる。

「デュアルライトパネル」は最薄9mmの両面発光照明で、裏表の輝度差がなく表面に対して均一に照射。蛍光灯に比べ消費電力を80%に低減した。案内板の照明、ポスター掲示、写真ホルダー、通常照明などに、用途開発を目指す。ほかにも、LED導光板を日光代わりに使った家庭内植物工場照明や水耕栽培照明を開発した。関連会社の長崎ニューテック(株)と内山オプトテック(株)が立地する長崎県の産業技術センターとは共同で、「フォトセラ」も開発した。フォトセラはLED導光板と長崎県の伝統工芸「波佐見焼」を融合した製品。写真をもとにタイルに成形した照明で、点灯するとタイルに写真が浮かび上がる。営業部長は「導光板の独自製品はここ1、2年で引き合いが増えている」と手ごたえを示す。

<http://www.wadatechno.co.jp>

